機能性食品 Active hexose correlated compound (AHCC)の肝細胞癌術後補助療法としての効果、及び健常人に対する免疫学的効果

松井　陽一、上山　泰男
関西医科大学　外科

肝細胞癌術後補助療法として、キノコ由来の複合物質である active hexose correlated compound (AHCC)を摂取することによる再発率、生存率、肝機能などへの影響を評価した。

1992 年 1 月から 2004 年 12 月までの 13 年間､当科で肝細胞癌に対し肝切除術を施行した患者が 396 例、その内、術後在院死 15 例を除く名 381 例を経過観察した。その内 AHCC を観察途中で開始した 36 例を除く残り 345 例を解析対象とした。この 345 例中 AHCC を術後より摂取していた症例が 216 例（AHCC 群)、摂取していない症例が 129 例（Control 群）であった。AHCC 摂取は患者の希望により決定された。

これらの症例の解析の結果、術前の患者背景因子には両群間に差はほとんど認められなかったが、無再発生存率、全生存率において、AHCC 群が有意に予後良好であった（p=0.0381, p=0.0351)。さらに、術後 5 年間の肝機能に関する生化学的検査 10 項目（Alb, T.Bil, ChE, Pl, AST, ALT, Alp, γ-GTP, AFP, PIVKA II）を追跡調査した結果、その内の 2 項目 AST, γ-GTP の経過が Control 群に比べ AHCC 群において有意に改善されていた。

これらのことから、慢性肝炎、肝硬変に合併した肝細胞癌の術後補助療法として、AHCC 摂取が肝炎を改善し、肝癌患者の生存率の改善につながる可能性が示唆された。

次に AHCC を摂取した健康成人の末梢血の樹状細胞（ＤＣ）の量や機能などを測定し、AHCC 摂取が健常人の免疫能に及ぼす効果を検討した。健康成人２１名を無作為割付し、AHCC を１日 3g, 4 週間経口摂取する群を AHCC 群（１０人)、偽薬を同量、同期間摂取する群を Control 群（１１人）とした。末梢血樹状細胞数（Flow cytometry）と機能（異形リンパ球混合試験 (MLR))、Ｔ細胞数（Flow cytometry）と機能（PHA によるリンパ球幼弱化試験)、ＮＫ細胞数と活性、各種サイトカインを測定した。この内、樹状細胞数と MLR による機能に２群間で差が認められ、それ以外の測定項目には有意差は認められなかった。AHCC 摂取により樹状細胞数が増加し、またＴ細胞刺激能を増強する可能性が示唆された。